

活動内容

石塚工務店で研修を行い、木造住宅の設計及び大工仕事の知識・技術を習得して事業継承を目指す。

(1)大工作業

１年間の大工仕事を通して木造住宅を建てる各工程の基本的な作業手順や使う道具・材料の知識が身についた。令和３年度に施工した建物は添付資料１の通り。主に平屋や２階建ての住宅、事務所・車庫の施工に携わった。以下に各工程で実施した内容を記す。

大工が行う最初の作業は基礎の上に土台を敷くことから始まる。基礎に設置してあるアンカーボルトは多少の施工誤差があるため、土台に開けるアンカーボルト用の穴は現場合合わせとなる。土台を設置したら柱や梁を組み立てていく。これを上棟というが、クレーンを手配して１日で柱・梁を組み立てる(写真１)。その後、屋根に垂木を流して野地板・防水のルーフィングを貼る。

屋根の作業が終わったら外壁に構造用パーティクルボード・透湿防水シートを貼って内部の作業に移る(写真２)。内部の作業は、床下地・天井・床仕上げ・壁の順に実施する。床は、根太と呼ばれる下地を設置することから始まり、土台の下に入れた束の高さを調整しながら根太を水平にする。根太が設置できたら構造用合板を釘で打ち付けていく(写真３)。天井は、野縁と呼ばれる下地を設置して断熱材を敷き、石膏ボードをビスで打ち付けていく。天井が終わったら、再び床の作業に戻って仕上げ材を貼り(写真４)、壁の施工に移る。外と接している壁には断熱材を設置し、石膏ボードをビスで柱や間柱に打ち付ける。石膏ボードの大きさは３尺×６尺であり、高さ６尺のところに石膏ボードのつなぎ目ができてしまうため、ここにビスを打ち付ける下地の木材を入れておく。また、入り隅にもビスを打ち付けるための下地を設置しておく。壁の石膏ボードの設置が終わったら上下に巾木・廻縁を設置して内装業者に引き渡しとなる。



写真１



写真２



写真３



写真４



写真５



写真６

(2)設計

基本的な大工作業が身についてきたこともあり、年度の終盤は住宅設計にも携わった。実施内容としては大きく意匠・構造・設備に分かれる。設計の始まりは施主との打ち合わせから始まり、要望を聞いて家族構成や敷地の条件、予算等を考慮しながら間取りのラフプランを考え、図面や三次元パース(下図)を作成し、再度施主と打ち合わせを繰り返しながら最終的な住宅の仕様を決める。これらの作業は主に意匠に分類され、この時点で構造や設備は大まかな構想の状態で詳細な検討は最終的な平面プランが決まってから以下を実施した。構造検討では、筋交いを設置する場所や接合部に使う金物の必要強度を検討した。また、設備検討では、どの部屋から給気や排気を行うかやシックハウス対策の検討を実施した。これらの検討後に建築確認申請の資料を作成し、検査機関に提出して確認済証の発行を受けると建築可能となる。設計は令和４年３月に実施したので、実際の建築は５月から始まる予定である。



図１ 平面図



図２ 三次元パース

(3)地域活動

巣箱や木製の植木鉢を作製して小学校・公民館に寄付したり、ゴッドマザー主催の保育園児のサツマイモ掘りの手伝いや江戸崎中学校のふるさと学習での講話などの地域活動を行った。

所感

地域おこし協力隊１年目は木造住宅の建築を通して大工仕事の基本が身についた。物作りの楽しさや完成時の達成感を感じられる充実した１年で、チャレンジの機会を与えてもらったことに感謝している。事業継承のためには身につけなければならないこと、覚えなければならないことが山積みであるが焦らず確実に成長できるように、協力隊２年目も向上心を持って活動したい。

添付資料1 施工建物リスト

	外観	内部	施工時
ON 邸 離れ客室			
T 邸			
K 邸			
OK 邸			
N 事務所			
OT 邸 車庫			
KM 邸			